

大宮南小の全児童 67人が生き物調査

【栃木】小規模特認校の大宮南小の全児童67人が参加する「水辺の活動」と題した生き物調査が28日、同校近くの赤沢川用水池で行われ、児童らが地域の自然と触れ合った。写真。

同活動は地元自治会を中心とした「仲仕上みどりの里」が国などの交付金を受けて行う事業で、調査と教育を兼ねている。同校は児童に地域の自然に親しんでもらおうと調査に参加して

10年目。

児童たちは約1時間、赤沢川用水池や田んぼで体長約50センチのコイや体長2センチのホウネンエビなど13種230匹を採集。11の水槽に分け、「メダカ里親の会」の中茎元一事務局長（69）から生き物の生態や特徴について詳しく説明を受けた。

5年浅野晋月さん（11）は「1年生に、自然がないと人間は生きていけないことを伝えていきたい」とにこやかに話した。

